

はじめに

「職場における安全衛生」といわれても、なんだか漠然とした印象で何から手をつけたらいいのかわからないという声を耳にすることがあります。たしかに、安全衛生というと小難しい響きがします。また普段の生活ではあまりなじみがないため、職場において安全衛生に関する何らかの担当者になっているということでもない限り、どうも他人事のように感じてしまうのが実際のところではあります。

しかし、「職場における安全衛生」は私たちが「健康に、かつ安全に」働くためのさまざまな決まりであり、職場のメンバー全員がその重要性を認識し、積極的に取り組んでいかなければ、この一見当たり前と思われる状況も維持できません。誰にとっても決して他人事として片づけられることではないのです。そして、この「職場における安全衛生」を推進するにあたって、重要な役割を果たすのが職場の管理・監督者です。管理・監督者は職場の安全衛生をトータルに考え、管理していかなければならない立場にあるのです。

何か事故が起きた後で当事者が共通して発するのは、「そんな決まりがあったのか。知らなかった…」あるいは「知っていたけれども、それを守らなかったからといって、こんな大事になるとは…」といったような言葉です。災害事故が発生してしまってから悔いるケースがとても多いのですが、どんなに悔いてみたところで時間は元には戻せません。「ああすればよかった、こうしとけばよかった」という後悔は、できることならしたくないはずですが、ましてや「安全衛生」のように人の命に関わることならなおさらです。

本テキストは、なぜ安全衛生の考え方が大切なのかといったことをはじめとし、安全衛生の推進方法、安全と衛生に関する重要なルールの基本的事項をしっかりと押さえていただけるような構成となっています。とりわけ管理・監督者として知っておいていただきたい重要なポイントを、労働安全衛生法をはじめとする安全衛生に関する関連法規等に基づき100項目に厳選ピックアップしました。また、すぐに日頃の業務へ生かせるようにできるだけ簡潔に解説しました。

本テキストを、改めて「職場における安全衛生」の重要性を考えるきっかけとし、よりよい職場環境を築くための実践書として活用していただければ幸いです。

目次とスケジュール

さあ、それではテキスト学習に入ります。途中で投げ出したりしないために、計画を立ててから取り組みましょう。自分自身のペースに合わせて無理のない計画を立てましょう。1日2項目を学習するのが平均的なスケジュールです。

は、診断で間違ったところやこれは特に重要だ、覚えておきたいという項目のところをチェックするのに使いましょう。

| 章 | 内 容 | P | 予定日 | 終了日 |
|----------|---|-----------|-----|-----|
| 1 | 安全衛生とは何か | 10 | | |
| | <input type="checkbox"/> 1 安全衛生とは | 10 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 2 安全衛生に対する価値意識が変わってきた | 11 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 3 安全衛生活動への取り組み | 12 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 4 “安全第一”は品質、生産性の向上につながる | 13 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 5 安全衛生対策は企業の社会的責任 | 14 | / | / |
| 2 | 労働安全衛生について知っておくべき決まりとは | 15 | | |
| | <input type="checkbox"/> 6 労働安全衛生法とは | 15 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 7 労働安全衛生にかかわる法体系 | 16 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 8 安全衛生管理体制をつくる必要がある | 17 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 9 労働災害や健康障害の防止のために企業がすべきこととは | 18 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 10 安全衛生教育とTHP（心と体の健康づくり）への取り組み | 19 | / | / |
| 3 | 安全衛生管理と管理・監督者の役割 | 20 | | |
| | <input type="checkbox"/> 11 安全衛生管理活動における管理・監督者の立場 | 20 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 12 法的違反について、管理・監督者の責任は問われるか | 21 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 13 管理・監督者としての心がまえ | 22 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 14 管理・監督者が行う安全衛生業務とは | 23 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 15 マネジメントシステム（OSHMS）を展開しよう | 24 | / | / |
| 4 | 労働災害の現状を知ろう | 25 | | |
| | <input type="checkbox"/> 16 労働災害とは | 25 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 17 労働災害の現状 | 26 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 18 製造業における労働災害 | 27 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 19 災害統計の読み方を知ろう | 28 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 20 労働災害防止に向けた取り組み | 29 | / | / |
| 5 | 災害発生のメカニズム | 30 | | |
| | <input type="checkbox"/> 21 不安全状態（物）と不安全行動（人） | 30 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 22 ハインリッヒの法則 | 31 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 23 ヒューマンエラーとは | 32 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 24 労働災害が起こりやすい状況とは | 33 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 25 三現主義の重要性を知る | 34 | / | / |

目次とスケジュール

| 章 | 内 容 | P | 予定日 | 終了日 |
|---|---|-----------|-----|-----|
| 6 | 不安全行動が起こる場面と原因 | 35 | | |
| | <input type="checkbox"/> 26 作業を遂行するための心身の働き | 35 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 27 不安全行動を予測する | 36 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 28 ゲシュタルトの法則（近道反応）と不安全行動 | 37 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 29 不安全行動を起こしやすい人とは | 38 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 30 感情・意識と不安全行動 | 39 | / | / |
| 7 | 不安全行動の防止策 | 40 | | |
| | <input type="checkbox"/> 31 作業管理を徹底しよう | 40 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 32 作業手順書と安全作業マニュアル | 41 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 33 危険予知トレーニング（KYT）を活用しよう | 42 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 34 指差呼称で安全確認 | 43 | / | / |
| <input type="checkbox"/> 35 部下を適正な部署に配置する | 44 | / | / | |
| 8 | 安全衛生に対する意識の高め方 | 45 | | |
| | <input type="checkbox"/> 36 安全についての感性が高い人を育てる | 45 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 37 ルール遵守を徹底させる | 46 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 38 「ほうれんそう」をきちんと行う | 47 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 39 ヒヤリ・ハット報告で危機意識を高める | 48 | / | / |
| <input type="checkbox"/> 40 安全衛生点検を行う | 49 | / | / | |
| 9 | 職場での安全衛生教育 | 50 | | |
| | <input type="checkbox"/> 41 安全衛生教育の種類と内容 | 50 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 42 雇入れ時と作業内容変更時に行う教育 | 51 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 43 作業を指導・監督する者への教育 | 52 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 44 能力向上教育実施のポイント | 53 | / | / |
| <input type="checkbox"/> 45 危険業務には特別教育が必要 | 54 | / | / | |
| 10 | 安全衛生教育の進め方 | 55 | | |
| | <input type="checkbox"/> 46 教育・指導のサイクルをまわす | 55 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 47 明確な目的を持って実施する | 56 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 48 効果的な教え方 | 57 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 49 日常業務のなかでも教育指導を行う | 58 | / | / |
| <input type="checkbox"/> 50 朝礼やTBMを活用する | 59 | / | / | |
| | <input type="checkbox"/> 添削問題 | | / | / |

目次とスケジュール

| 章 | 内 容 | P | 予定日 | 終了日 |
|----|---|-----------|-----|-----|
| 11 | 職場環境を改善する | 62 | | |
| | <input type="checkbox"/> 51 職場改善はなぜ必要か | 62 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 52 快適な職場環境のために考慮すべきポイント | 63 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 53 作業環境の改善の進め方 | 64 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 54 職場の環境条件と健康障害 | 65 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 55 職業性疾病を予防するための対策 | 66 | / | / |
| 12 | 設備の安全化 | 67 | | |
| | <input type="checkbox"/> 56 設備の安全化とゼロ災 | 67 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 57 設備安全化のポイント | 68 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 58 本質安全化とは | 69 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 59 フール・ブルーフとフェール・セーフ | 70 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 60 危険防止対策の考え方 | 71 | / | / |
| 13 | 職場の整理・整頓 | 72 | | |
| | <input type="checkbox"/> 61 5Sとは | 72 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 62 5Sの効果 | 73 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 63 5Sは安全活動の第一歩 | 74 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 64 作業場で5Sを実践する | 75 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 65 なぜ5Sができないのか | 76 | / | / |
| 14 | 安全と衛生を確保する | 77 | | |
| | <input type="checkbox"/> 66 安全衛生活動とは | 77 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 67 ルールの遵守を徹底させる | 78 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 68 危険・有害な作業環境を調査する | 79 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 69 危険・有害業務に従事するためには資格が必要 | 80 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 70 危険・有害な化学物質等の取扱いに対する規制 | 81 | / | / |
| 15 | 健康障害を防止する | 82 | | |
| | <input type="checkbox"/> 71 有機溶剤を取扱う際の注意点 | 82 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 72 粉じんへのばく露を防ぐ | 83 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 73 四アルキル鉛の取扱いへの規制 | 84 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 74 特定化学物質の取扱い | 85 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 75 酸素欠乏症・硫化水素中毒を防止する | 86 | / | / |

| 章 | 内 容 | P | 予定日 | 終了日 |
|----|---|------------|-----|-----|
| 16 | 労働災害を防止する | 87 | | |
| | <input type="checkbox"/> 76 貨物の取扱い | 87 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 77 墜落・転落を防止する | 88 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 78 機械の取扱い | 89 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 79 電気による災害 | 90 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 80 爆発、火災 | 91 | / | / |
| 17 | トラブル発生時・緊急時の対応 | 92 | | |
| | <input type="checkbox"/> 81 異常とは | 92 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 82 異常を発見したら | 93 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 83 災害発生時にとるべき緊急処置は | 94 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 84 災害原因の調査と分析 | 95 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 85 トラブルに対する日常の備え | 96 | / | / |
| 18 | 健康管理への取り組み | 97 | | |
| | <input type="checkbox"/> 86 健康とはどんな状態か | 97 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 87 効果的な休養で疲労を回復する | 98 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 88 医師の面接指導を実施する | 99 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 89 ストレス対策とメンタルヘルスケア | 100 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 90 セルフケアの重要性 | 101 | / | / |
| 19 | 健康診断を実施する | 102 | | |
| | <input type="checkbox"/> 91 年1回、定期健康診断を行う | 102 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 92 労働者を雇入れるときの健康診断 | 103 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 93 海外派遣者の健康診断 | 104 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 94 有害業務を行う者の健康診断 | 105 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 95 健康診断の結果通知と保健指導 | 106 | / | / |
| 20 | これからの安全衛生管理 | 107 | | |
| | <input type="checkbox"/> 96 派遣・請負労働者の安全衛生を確保する | 107 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 97 高齢者の雇用と安全 | 108 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 98 安全配慮義務の重要性 | 109 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 99 VDT作業に従事させるときに注意すべきポイント | 110 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 100 交通労働災害の防止対策 | 111 | / | / |
| | <input type="checkbox"/> 添削問題 | | / | / |

第1章～第10章

安全衛生のための管理と教育のしかた

安全衛生とは

学習のポイント

POINT ① 安全衛生とは労働者が健康に危険なく安心して働くことができる環境づくりのことである

POINT ② 安全衛生に対する取り組みを日々実践することで安全衛生水準を高める

辞書で安全と衛生をそれぞれ調べてみると、次のような説明がされています。

安全：危害または損傷・損害を受けるおそれのないこと。危険がなく安心なさま

衛生：身の回りを清潔にして健康を保ち、病気にかからないようにすること（「大辞林 第二版」より）

職場における安全衛生とは、辞書の説明にあるように、労働者が健康を保ちながら危険なく安心して働くことができる環境づくりのことであるといえます。労働者のトータルな意味での安全を確保するのが安全衛生の理念なのです。

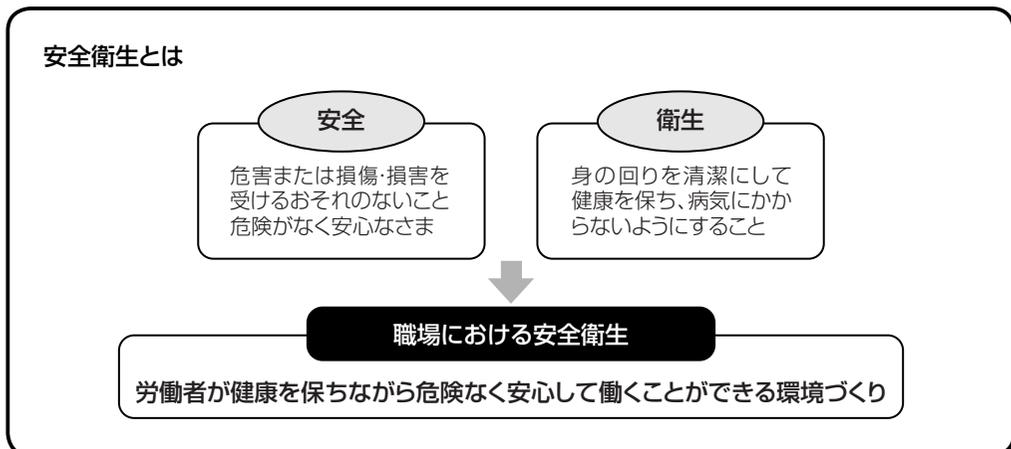
多くの企業では独自に工夫した安全衛生に関する活動が行われていますが、安全衛生に対する意識は、これらの活動をとおしてある日突然に高まるわけではなく、日々の取り組みが作り出すものです。企業が丸となって安全衛生に関する活動意識を高めていくことが、職場の安全衛生水準を高めることにつながるのです。

それでは、具体的にどのような取り組みをすれ

ばよいのでしょうか。職場の危険を身近に感じているのは、そこで働く労働者です。そのため、労働者が安全衛生に関する提案をする制度を設けることは、職場の安全衛生水準を高め、労働災害を防止するうえで大変重要であり、有効です。提案制度を設ける場合には、出された提案に対し真摯に対応することはもちろんのこと、まずは提案が出てきやすい職場環境づくりを心がける必要があります。

労働者の安全衛生活動への参加意欲を高めるには、「安全パトロール」や「安全スピーチ（多くは朝礼時に行う）」を実施するなど、具体的な活動を日常の業務の一部に組み込むとよいでしょう。

労働災害が発生してしまった場合には、同じような災害を二度と起こさないために、原因をしっかりと究明し、具体的にどうすれば災害が発生しなかったのかを検討する必要があります。そして、検討するだけでなく、具体的な対策を立てなければなりません。



安全衛生に対する価値意識が変わってきた

学習のポイント

POINT ① 労働災害の発生は職場環境を管理する企業側に大きな責任がある

POINT ② 安全衛生管理を、リスク対応として位置づける企業が増えてきている

近年安全衛生に対する価値意識が変化してきていますが、その大きな要因は、安全衛生に取り組んでいる企業とそうでない企業とでは、その結果に大きな差が出るようになってきたからです。

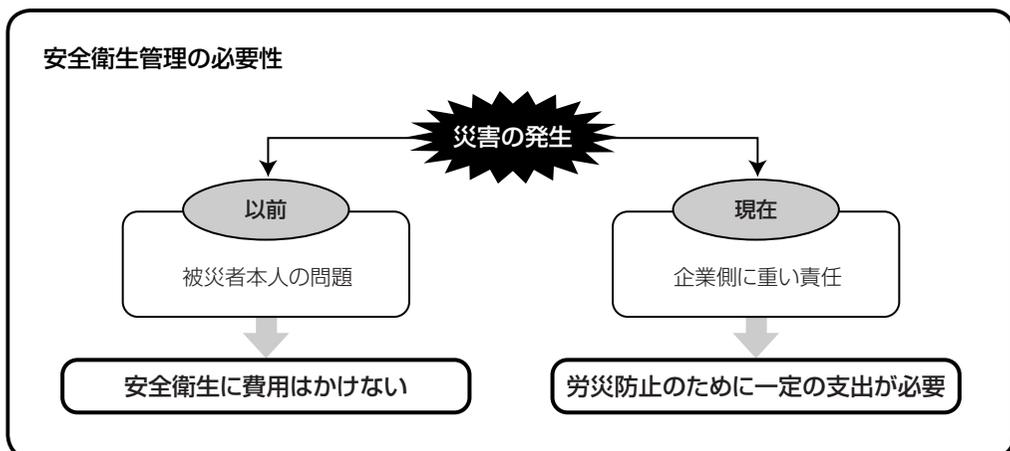
大きな差とは労働災害発生率に関することだけでなく、企業経営自体にも見られます。それは、労働災害の多い企業はあらゆる面での管理がずさんであるとされ、商品価値に対する信頼が低くなり、受注に影響を及ぼすからです。

以前は、労働者が被災すると、「あいつはいつも注意力に欠けるからケガをするんだ」とか、「仕事に不慣れだから致し方ない」など、災害の発生が被災者本人の問題として片付けられてしまうことも少なくありませんでした。しかし、さまざまな統計や人間の行動に関する研究により、安全衛生に対する取り組み方を変えれば労働災害を防ぐことができるということが明らかとなり、現在では、被災は職場環境を管理する企業側に重い責任があるとの認識が変わってきているのです。

かつては費用をかけて安全衛生に取り組むと

いった風潮は薄かったのですが、現在では労働災害防止のためには必要だと考えられており、積極的に安全衛生対策に取り組む企業が多くなっています。安全衛生対策に必要な金額を出し惜しみしたために、多くの死傷者を出すといったような労働災害の例が過去にいくつもあり、これらの災害例を教訓として、安全衛生に対する意識が変化してきたともいえます。

また、最近では、労働災害の被災者やその家族から損害賠償請求されるケースが増えてきています。被災者は労働災害補償保険の適用により一定の補償を受けることができますが、その他に、企業側の安全衛生配慮義務違反を問うことが可能な状況における被災である場合には、民事訴訟を起こすケースが増加してきているのです。その訴訟額は企業経営そのものを脅かしかねないくらいの額である場合も少なくありません。安全衛生への取り組みがずさんな状態で重大な労働災害を生じさせれば、想像以上のペナルティが課せられてしまうのです。



安全衛生活動への取り組み

学習のポイント

POINT ① 安全衛生活動は現場にあった活動でなければならない

POINT ② 一人ひとりが積極的に取り組まなければ効果はない

労働者の安全衛生をきちんと確保することができれば、職場は安心して働くことのできる場となり、個々の労働者の作業能率はアップします。一人ひとりの作業能率のアップする程度は小さくとも、それが積み重なれば、職場全体の作業能率が大きく向上することになります。短期的な視点で考えれば些細なことかも知れませんが、長期的な視点で捉えると、企業利益に大きな影響をもたらします。

企業は利益をあげなければその活動を維持することはできず、労働者の安定した雇用もできません。そのため、企業の利益に直結する安全衛生活動への取り組みは企業にとっても雇用者にとっても大変重要なのです。

安全衛生活動に対する取り組みは、どのような取り組みを行うにしても、現場にあった活動でなければその効果は得られません。

また形だけの活動にならないために、現場の一人ひとりの安全衛生活動に対する意識を高める必要があります。うまくいかない安全衛生活動の例

として、一部の人のみが必要になって活動に取り組み、他の人はしらけている、といったケースがよく見受けられます。その一番の原因は、労働者の安全衛生活動に対する“やらされている”という意識の強さです。

安全衛生活動は強制されてやるのではなく、一人ひとりが積極的にその活動に取り組まなければ効果はありません。もし、あなたの職場が“やらされ感”が強く、安全衛生活動がうまく機能していない職場であるとするれば、安全衛生活動が何のために必要なのかについて、改めて考え直し、従業員にも理解させる必要があります。

安全衛生活動を実施するに当たっては、多くの場合、企業としての“安全衛生基本方針”を掲げ、これに基づき活動を実行する形をとります。まずは企業としての安全衛生活動に対する基本方針が何を目的にして、どのように設定されているのか、しっかりと見直してみてください。

安全衛生基本方針の例

“社員の安全と健康の確保”が企業活動の基盤であるとの認識のもとに、安全で快適な職場と、個々人の健康を実現するための活動を推進する。

- ・ 全員参加のもとに活動を推進する
- ・ 労働安全衛生マネジメントシステムを適切に実施、運用し、効果的な活動の推進と継続的な改善を図る
- ・ 労働安全衛生に関する法令、会社規程、マニュアル等を遵守する。